

令和2年度第3回 神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

令和2年12月16日（水）13:30～17:00

■ 開会

（基金事業課長から本日の予定を説明）

- 田中委員及び峯尾委員が欠席、委員6名での開催。
- 会議の流れを説明
 - ・ 14時20分から、令和3年度ボランティア団体成長支援事業のプレゼン審査
 - ・ 14時55分から、プレゼン審査に対する選考（結果発表は後日）
 - ・ 15時30分から、令和2年度ボランティア活動奨励賞の選考
 - ・ 16時45分閉会予定

（審査会長より開会の宣言）

- 令和2年度第3回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開会する。
- 率直な意見交換を通じて公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当することから非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■ 審議事項1 令和3年度ボランティア団体成長支援事業の選考

（基金事業課長から以下について説明）

- ボランティア団体成長支援事業の応募状況
- 来年度のボランティア団体成長支援事業に係る予算

（事務局から事前調査結果等について説明（資料1・参考資料2））

（委員による審議）

- ボランティア団体成長支援事業への提案事業に係るプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（プレゼンテーション審査の実施）

- ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。

【組織のリデザイン支援プログラムノウハウ移転事業】

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構（以下「藤沢市民活動推進機構」という。）

によるプレゼンテーション実施。

【質疑】

(中島委員)

今年度もセルフチェックツールを用いて支援を行い、成果が出ていると思う。それを受けて、今後、中間支援組織と一緒に支援していく対象として想定している団体や、貴団体として成長してほしいと考えている団体はあるか。

(藤沢市民活動推進機構)

今回はできるだけ地域性を高めるという意味で、手をあげていただいた中間支援組織が、この団体を何とか支援したいと考えた所に声を掛けている。中間支援組織が、その地域の団体とどのようにコミットしていくかは非常に重要である。支援対象団体の幅を広げていくことも重要なので、一般公募の形もとるが、悩みを抱えている団体はこちらから見つける必要がある。後継者がいない等の悩みを抱えているような団体や、なんとなく動きが鈍いように見える団体、笑顔が最近減っている団体等に声を掛けていきたい。

(中島委員)

セルフチェックツールを用いれば、団体にとって気づきがあると思う。その気づきを得てから、団体の具体的な事業が改善され、信頼を得るまでの筋道のようなものはあるのか。

(藤沢市民活動推進機構)

例えば、相模原の団体である「ちゅうおうくらしねっと」はバランスがいいため、一目では課題が見えにくい。しかし、自己診断シートを用いることで団体の課題が浮き彫りになり、それを解決するための支援プランを立てることができる。全員にフィードバックをすることで、団体の中のことが見えてくるというのがこの自己診断シートの特徴。その後のセミナーの参加者が多いということも、この事業の大きな特徴である。

(中島委員)

課題を解決すると言ったとき、大きく分けて2つの意味合いがあると思う。1つは、マイナスの状況をゼロに戻すというもの。もう1つは、これから何か新しいことをしたいが、どうしたらいいかわからないという悩みを解決するというもの。後者のような事例も支援対象となるのか。

(藤沢市民活動推進機構)

自己診断シートには、今後について書く欄もある。将来のことを考えている人とそ

うでない人が出てくる。将来のことを考えている人は、将来のことを考えていない人がいることを知り、将来のことを考えていない人は、将来のことを考えている人がいることを知る。そうすると、将来についてのビジョンが団体の中で共有されていないということが分かるので、それも支援内容を決める参考となる。

(中島委員)

令和3年度の事業は、中間支援組織と協力して団体を支援していくことがターゲットとなるが、理想としては、どのような団体を支援したいと考えているのか。また、中間支援組織にノウハウを移転するための具体的な方法を教えてほしい。

(藤沢市民活動推進機構)

県央部や川崎地域、横須賀・三浦地域等、まだ中間支援組織との協力関係があまりできていない地域で支援していきたい。

ノウハウは、公設民営の支援センターに移転していきたい。様々なノウハウを持った中間支援組織が増えていくことで、県域全体のNPOやボランティア団体の基礎力が上がると考えている。そのためには、どのようにNPOやボランティア団体を支援すべきかを意識することが大切である。

今年度はカンファレンスを実施し、どのような支援を行うことが各団体のためになるか、ということ全員で話し合った。若い世代の参加者数は期待していたほど伸びず、高齢の方が多かったが、そうした方が会社員時代に培ったノウハウが、よく活かされたカンファレンスだった。今後は、そうした高齢の方が生き生きと過ごせるようになると期待している。

(為崎委員)

この事業を県域に広げていくという点に関連して、中間支援組織間で支援力に違いもあるとのことだが、組織面でなく事業面での課題を抱えている団体は、この事業による課題解決の支援対象にならないのか。

(藤沢市民活動推進機構)

全ての悩みを1つのプロジェクトで解決することは難しい。事業面での課題を抱えている団体については、各支援センターで助成金の情報やノウハウを持っているので、地域性の高い支援で間に合うと思う。また、各支援センターでは相談業務も行っているので、個人的な感覚としては、事業面でのサポートはできると思う。一方、各支援センターでできていないのが団体の基礎力を高めるという部分なので、今回の提案はその点に特化している。

(為崎委員)

令和3年度の事業計画では、シニアサポーターがいて、その下に協力サポーターが

いる。さらに伴走支援にあたっては専門家も参加するという点で、かなり複雑な仕組みとなっている。どの中間支援組織がシニアサポーターになるか、ある程度見えてきているのかという点と、ある程度合意が得られているのかという点について教えてほしい。併せて、令和2年度から継続する協力サポーターと新たに募る協力サポーターの団体数は、それぞれどの程度を想定しているのか教えてほしい。

(藤沢市民活動推進機構)

セルフチェックの分析表を見て、自分なりの考察ができる中間支援組織にシニアサポーターとなっていただく。今いるサポーターは、必ずしも全員が自分なりに考察できるわけではない。当団体が、しっかりと考察ができると認めたサポーターには、シニアサポーターになっていただき、そうでないサポーターには、引き続き協力サポーターとして動いていただく。

なお、伴走支援者には、中間支援組織のスタッフだけではなく、士業の方や他の支援団体の方にも専門家として参加していただいている。この専門家も、引き続き発掘していくが、サポーターとは別の枠で考えていただいてもよい。

(為崎委員)

今年度の協力サポーター5団体のうち3団体がシニアサポーターになり、残り2団体が引き続き協力サポーターとして動くという理解でよい。

(藤沢市民活動推進機構)

あくまでも予想である。

(為崎委員)

予算に占める人件費と謝金の割合が大きい。仮に令和3年度いっぱいボランティア団体成長支援事業としての実施が終了した場合、この事業に関わった各中間支援組織が、自分たちだけで事業を継続できるのかが心配である。ボランティア団体成長支援事業の終了後、自走化するための資金確保に関して想定しているモデルがあれば教えてほしい。

(藤沢市民活動推進機構)

この事業が呼び水になればいいと考えている。中間支援組織は、自分たちで井戸から水を汲み上げる能力を身に付ける必要がある。もちろん、当団体がサポートできることがあれば、サポートしていく。ただ、各中間支援組織が、本ツールの17の視点を使って支援する能力を身に付けていけば、各市町との交渉能力も高まるし、県にとって必要な事業ということになれば、県が予算をつけることもあると思う。

(為崎委員)

今年度の実績の中で、描いているモデルに近い形になった事例はあるか。

(藤沢市民活動推進機構)

さがみはら市民活動サポートセンターには、当初からこのプログラムをしっかりと理解していただいている。自分たちで分析をし、それをカンファレンスで発表し、関係者から賛同を得て、伴走者も探し、支援を行っている。これが理想の形である。この団体であれば、当団体から謝金等を支払わなくても、自分たちだけで事業を進めるだけの力があると思う。

(長坂会長)

支援対象団体は10団体程度であり、中間支援組織も新たに5団体発掘する。また、専門家の協力を得て伴走支援を行いつつ、伴走支援のための専門家を3名獲得する、というのが全体の大枠という認識でよいか。

(藤沢市民活動推進機構)

そのとおりである。

(委員による審議)

- ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、対象事業を選考した。
- ※ 選考結果は後日団体に通知。

■ 審議事項2 令和2年度ボランティア活動奨励賞受賞者の選考

(基金事業課長から以下について説明)

- ボランティア活動奨励賞の推薦状況(資料2)
- 今年度のボランティア活動奨励賞に係る予算
- 審査委員と利害関係のある被推薦者なし

(事務局から事前調査結果等について説明(資料3・4・5・参考資料3))

(委員による審議)

- ボランティア活動奨励賞への推薦者について審議を行い、被表彰者を選考した。

■ 報告事項 令和3年度協働事業負担金における審査会意見及び現時点調整状況

(事務局から令和2年度協働事業負担金における現時点での調整状況について説明)

(資料6))

(委員による審議)

- 報告内容について意見交換、質疑応答を行った。

■ 閉会

(審査会長より閉会の宣言)

- 令和2年度第3回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)